令和6年度入学生用カリキュラムマップ

【演奏学科】

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1．知識・理解			2．技能・表現			3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
24UMUP1100	初期演習Ⅰ	1	本学で修得すべきことは何かを理解し、自主的に学び新たな発見を導きだせる力を身につけることを目的とする。このため、本学の「立学の精神」「教育目標」を知り、本学学生としての誇りと自覚を持つ。さらに、主体性・論理性・実行力を培い、女性として有為な社会人となるために、それぞれの学部学科の専門性に基づく知識と社会人基礎力の修得の必要性を理解し、各自のキャリアデザインを自ら構築する。	大学の修学の基礎となる単位制を理解し、適切な履修計画に沿って修学する主体性、考える力を身につけ、所属学科の3つのポリシーに基づく専門教育の概要を把握し、自らのキャリアデザインを組み立てる力を身につける。また、良識ある社会人となるための社会人基礎力の必要性を理解し、その基盤となる十分なコミュニケーション能力を培い、基本的な社会ルールを理解し、本学学生としての誇りと自覚を身につける。さらに、学習・研究を進める上での倫理の基礎となる情報の取り扱いに関する知識を身につける。							○		○	◎		○
24UMUP1101	初期演習Ⅱ（音楽探究への誘い）	1	前期の「初期演習Ⅰ」での学習を踏まえ、4年間の本学科における教育の体系、一貫性を理解し、より多角的な音楽の研究をとおして全人的発展を遂げ、将来のキャリアパス形成に繋がるよう、今後の本学科における専門教育の目標を達成するよう導く。	①専門領域のより多角的な研究を遂げるためにカリキュラムツリーに基づくカリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの理解を深める。 ②専門領域における研究倫理を培うとともに、卒業後の進路も見据えたキャリアパス形成に向けた知識、手段を考える力を身につける。 ③上記の事項を実践し、総合的に成熟した音楽人として成長していく。		○					○		○	◎		○
24UMUP2102	2年次演習	2	音楽人として確実に身につけておくべき事項を中心に課題を与え、「情報収集、思考、討議、分析、プレゼンテーション」という主体的・能動的学習を経験し、グループワークによる協働力を養う。	上級学年において、より専門的な研究を深め音楽芸術を表現・活用していくため、また将来のさまざまな進路に向けて、論理的思考力、コミュニケーション能力の向上を目指す。	○	○					○		○		◎	○
24UMUP1103	英語A	1	人物、都市、歴史、政治、社会問題、スポーツにいたるまで幅広い関心事を取り扱ったテキストを使用し、英語力を養う。同時にその言語の背景にある文化も学び教養を広げ深めていく。	聴く、話す、書く、読むの四技能の向上を目指す。 平易ではあるが味わい深い英・米の詩を取り上げ、文学的な好奇心を引き出す。			◎								○	
24UMUP1104	英語B	1	人物、都市、歴史、政治に至るまで幅広い関心事を取り扱ったテキストを使用して英語力のアップを目指していく。そして同時にその言語の背景にある文化についても学習し教養を広げ深める。	聴く、話す、書く、読む、の四技能の向上を目指す。 平易ではあるが味わい深い英・米の詩も取り上げながら、文学的な好奇心も引き出す。			◎								○	
24UMUP1105	Oral Communication	1	「英文法はある程度わかっていても、いざとなると英語が話せない」という人は多い。本授業では、英語でコミュニケーションを図る際のフォーマットを確認し、実際に「使う」ことを経験しながら、コミュニケーション能力を養う。	英語の基礎文法や語彙などを復習しながら、インタラクティブな授業を通して様々な状況での基本的な実用会話ができるようになることを目標とする。			◎								○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1．知識・理解			2．技能・表現			3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
24UMUP1106	情報リテラシーⅠ	1	大学教育に適応し、安全で適切な情報活用ができるための基礎的な情報リテラシーを身につける。コンピュータやネットワークの知識、情報モラルの知識と実践力を育成するとともにオフィスソフトの活用をもとにしたレポート作成の基礎的な技能を確実に習得する。	・本学のシステムやオンラインサービスを知り、使いこなすことができる。 ・基礎的なコンピュータやネットワークに関する知識、情報モラルに関する知識をもち、場面に応じて安全にコンピュータやネットワークを活用することができる。 ・レポートを作成するために必要なソフトの活用技能を習得し、課題に応じた簡単なレポート作成ができる。											○	◎
24UMUP1107	情報リテラシーⅡ	1	MS-Excelを発展的に取り扱うことにより、データ処理の知識と技能を習得する。「情報リテラシーⅠ」では十分に行えなかった、MS-Excel/Wordを連携的に取り扱うことにより、専門教育課程の課題やレポート作成とビジネス現場で適用できるデータ処理の基本的技能を習得する。	専門教育で取り扱う各種データをMS-Excelで処理し、レポート作成や卒業論文に役立つレベルを目標とする。											○	◎
24UMUP1200	主専実技ⅠA	1	声楽：芸術作品を演奏するにふさわしい能力を高める。 ピアノ：芸術作品を演奏するためにふさわしいピアノ演奏能力を高める。 ヴァイオリン：ヴァイオリンを通して音楽に親しみ、より深く理解し、演奏技術と豊かな表現力の向上を目的とする。 ヴィオラ：ヴィオラ演奏の向上を図る。 チェロ：チェロを通して音楽に親しみ、より深く理解し、演奏技術と豊かな表現力の向上を目的とする。 フルート：フルートを媒体としての音楽表現力の向上を目指す。 オーボエ：演奏力を高めるための基礎と知識を学ぶ。 クラリネット：クラリネットを演奏する上で求められる演奏技術、音楽性や知識を習得すること。またレパートリーの拡充を目的とする。 ファゴット：楽器構造の理解を中心に知識を深めるとともに、演奏のための基礎を向上させる。 サクソフォン：サクソフォンの基礎奏法、音楽的な解釈を学ぶ。 ホルン：ホルン奏者としての演奏技術と幅広い知識を習得する。 トランペット：音楽表現において必要な技術と知識を学ぶ。 トロンボーン：楽器構造を理解し演奏基礎を向上させることを目的とする。	声楽：演奏するために必要な技術、音楽性、表現力を身につけることを目標とする。声楽は身体全体が楽器となるため、柔軟な体を作り、基礎的な呼吸法、発声法を習得する。 ピアノ：課題曲を演奏するために必要な技術・音楽性・表現力を身につける。 ヴァイオリン：知識・技能を自らの演奏に活かす。 ヴィオラ：ヴィオラの様々な演奏技術や楽器の構造、歴史などを幅広く身につける。 チェロ：チェロの様々な基礎技術や楽器の構造、歴史などを幅広く身につけ、与えられた課題を慎重かつ真面目に自発的に取り組む姿勢を養う。 フルート：音楽を表現するための妨げとなる、フルートという楽器の制約（低音域の音量が乏しい、跳躍した音型のレガート奏法の困難さ等）を克服するための方法を、自ら考え適応力を身につける。 オーボエ：音楽史における様式の理解に則った演奏の方法を身につける。 クラリネット：クラリネット奏者としての基礎能力を確立する。 ファゴット：演奏技術を向上させ、様々な様式の楽曲に取り組むための準備を整える。 サクソフォン：サクソフォンの基本的な奏法を身につけ、古典的なレパートリーが演奏できるようになる事を目標とする。 ホルン：演奏技術の基礎を確立させるとともに、自発的に研究を行う姿勢を身につける。 トランペット：演奏における基礎を確立させ、楽譜を読み解く解釈の方法を身につける。 トロンボーン：演奏における基礎技法を確立させ、様々な音楽表現に基礎を応用させるための力を養う。				◎			◎			◎		○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1．知識・理解			2．技能・表現			3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
24UMUP1201	主専実技Ⅰ B	1	声楽：芸術作品を演奏するにふさわしい能力を高める。 ピアノ：芸術作品を演奏するためにふさわしいピアノ演奏能力を高める。 ヴァイオリン：前期の学習をふまえて、さらに音楽やヴァイオリンへの理解を深める。 ヴィオラ：ヴィオラ演奏の向上を図る。 チェロ：前期の学習をふまえて、さらに音楽やチェロへの理解を深める。 フルート：フルートを媒体としての音楽表現力の向上を目指す。 オーボエ：演奏力を高めるための基礎と知識を学ぶ。 クラリネット：クラリネットを演奏する上で求められる演奏技術、音楽性や知識を習得すること。またレパートリーの拡充を目的とする。 ファゴット：楽器構造の理解を中心に知識を深めるとともに、演奏のための基礎を向上させる。 サクソフォン：サクソフォンの奏法、音楽的な解釈を専門的に深く学ぶ。 ホルン：ホルン奏者としての演奏技術と幅広い知識を習得する。 トランペット：音楽表現において必要な技術と知識を学ぶ。 トロンボーン：楽器構造を理解し演奏基礎を向上させることを目的とする。	声楽：演奏するために必要な技術、音楽性、表現力を身につけることを目標とする。声楽は身体全体が楽器となるため、柔軟な体を作り、基礎的な呼吸法、発声法を習得する。 ピアノ：課題曲を演奏するために必要な技術・音楽性・表現力を身につける。 ヴァイオリン：知識・技能を自らの演奏に活かす。 ヴィオラ：ヴィオラの様々な基礎技術や楽器の構造、歴史などを幅広く学習し、より高度な演奏表現ができるようにする。 チェロ：チェロの様々な基礎技術や楽器の構造、歴史などを幅広く身につける フルート：音楽を表現するための妨げとなる、フルートという楽器の制約（低音域の音量が乏しい、跳躍した音型のレガート奏法の困難さ等）を克服するための方法を、自ら考え、適応力を身につける。 オーボエ：音楽史における様式の理解に則った演奏の方法を身につける。 クラリネット：前期で学んだ技術をさらに確実な物にしていく。 ファゴット：演奏技術を向上させ、様々な様式の楽曲に取り組むための準備を整える。 サクソフォン：サクソフォンの基本的な奏法を身につけ、前期よりもやや高度なテクニックを要する古典的なレパートリーが演奏できるようになる事を目標とする。 ホルン：演奏技術の基礎を確立させるとともに、自発的に研究を行う姿勢を身につける。 トランペット：演奏における基礎を確立させ、楽譜を読み解く解釈の方法を身につける。 トロンボーン：演奏における基礎技法を確立させ、様々な音楽表現に基礎を応用させるための力を養う。				◎			◎			◎		○
24UMUP2202	主専実技Ⅱ A	2	声楽：芸術作品を演奏するにふさわしい能力を高める。 ピアノ：芸術作品を演奏するにふさわしいピアノ演奏能力を高める。 ヴァイオリン：ヴァイオリン演奏のために必要な演奏技術、音楽的理解、表現力の向上を目的とする。 ヴィオラ：ヴィオラ演奏の向上を図る。 チェロ：チェロ演奏のために必要な演奏技術、音楽的理解、表現力の向上を目的とする。 フルート：フルートを媒体としての音楽表現力の向上を目指す。 クラリネット：クラリネットを演奏する上で求められる演奏技術、音楽性や知識を習得すること。またレパートリーの拡充を目的とする。 サクソフォン：サクソフォンの演奏技術の向上、音楽的な解釈方法を学ぶ。 ホルン：ホルン奏者としての演奏技術と幅広い知識を習得する。	声楽：演奏するために必要な技術、音楽性、表現力を身につけることを目標とする。 １年次で学んだ呼吸法、発声法のさらなる追求に取り組みながら、レパートリーを広げる。 ピアノ：課題曲を演奏するために必要な技術・音楽性・表現力を身につける。 ヴァイオリン：ヴァイオリンを通して音楽を広く、深く理解する。 ヴィオラ：ヴィオラの様々な基礎技術や楽器の構造、歴史などを幅広く学習し、より高度な演奏表現ができるようにする。 チェロ：チェロのさらに発展したテクニックを習得、幅広い音楽性を身につける。 フルート：音楽を表現するための妨げとなる、フルートという楽器の制約（低音域の音量が乏しい、跳躍した音型のレガート奏法の困難さ等）を克服するための方法を自ら考え、適応力を身につける。 クラリネット：主専実技Ⅰで学んだ内容をさらに確実なものにするとともに、音楽表現の基本を身につける。 サクソフォン：バロック、ロマン派等の作品を取り上げ、研究を深める。 ホルン：演奏技術の基礎を確立させると共に、自発的に研究を行う姿勢を身につける。				◎			◎			◎		○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1．知識・理解			2．技能・表現			3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
24UMUP2203	主 専 実 技 Ⅱ B	2	声楽：芸術作品を演奏するにふさわしい能力を高める。 ピアノ：芸術作品を演奏するにふさわしいピアノ演奏能力を高める。 ヴァイオリン：ヴァイオリン演奏のために必要な演奏技術、音楽的理解、表現力の向上を目的とする。 ヴィオラ：ヴィオラ演奏の向上を図る。 チェロ：チェロ演奏のために必要な演奏技術、音楽的理解、表現力の向上を目的とする。 フルート：フルートを媒体としての音楽表現力の向上を目指す。 クラリネット：クラリネットを演奏する上で求められる演奏技術、音楽性や知識を習得すること。またレパートリーの拡充を目的とする。 サクソフォン：さらなる演奏技術の向上とともに、豊かな音楽性を養う。 ホルン：ホルン奏者としての演奏技術と幅広い知識を習得する。	声楽：演奏するために必要な技術、音楽性、表現力を身につけることを目標とする。これまで学んできた呼吸法、発声法のさらなる追及に取り組み、レパートリーを広げる。 ピアノ：課題曲を演奏するために必要な技術・音楽性・表現力を身につける。 ヴァイオリン：前期の学習を踏まえ、さらに音楽に対する理解を深める。 ヴィオラ：基礎的な技術を見直し、フォームなどを矯正して、より高度な演奏表現ができるようにする。 チェロ：前期で習得したチェロ技術を応用し、与えられた課題をさらに高度に演奏することを目標にする。 フルート：音楽を表現するための妨げとなる、フルートという楽器の制約（低音域の音量が乏しい、跳躍した音型のレガート奏法の困難さ等）を克服するための方法を自ら考え、適応力を身につける。 クラリネット：主専実技ⅡＡに引き続き、さらに高度な表現を身につける。 サクソフォン：フランス音楽を中心とした作品を取り上げ、研究を深める。 ホルン：演奏技術の基礎を確立させると共に、自発的に研究を行う姿勢を身につける。				◎			◎			◎		○
24UMUP3204	主 専 実 技 Ⅲ A	3	声楽：芸術作品を演奏するにふさわしい能力を高める。 ピアノ：芸術作品を演奏するための能力を高める。 ヴァイオリン：ヴァイオリンを通して音楽に親しみ、より深く理解し、演奏技術と豊かな表現力の向上を目的とする。 ヴィオラ：より高度な技術を身につける。 チェロ：チェロ演奏のために必要な演奏技術、音楽的理解、表現力の向上を目的とする。 フルート：フルートを媒体としての音楽表現力の向上を目指す。 クラリネット：クラリネットを演奏する上で求められる演奏技術、音楽性や知識を習得すること。またレパートリーの拡充を目的とする。 サクソフォン：高度な技術を身につけ、表現力の幅を広げる。 ホルン：ホルン奏者としての演奏技術と幅広い知識を習得する。	声楽：演奏するために必要な技術、音楽性、表現力を身につけることを目標とする。声楽曲を演奏するために必要な呼吸法、発声法等の歌唱法をさらに充実させる。 ピアノ：課題曲を演奏するために必要な技術・音楽性・表現力を身につける。 ヴァイオリン：知識・技能を自らの演奏に活かす。 ヴィオラ：技術面でより高度なテクニックを操れるようにする。 チェロ：チェロのさらに発展したテクニックを習得し、また独奏のみではなく、他の楽器との合奏を経験し、幅広い音楽性を身につける。 フルート：音楽を表現するための妨げとなる、フルートという楽器の制約（低音域の音量が乏しい、跳躍した音型のレガート奏法の困難さ等）を克服するための方法を自ら考え、適応力を身につける。 クラリネット：さらに高度な演奏技術、表現力を身につける。 サクソフォン：現代の作品を研究し、さらにレパートリーを拡大していく。 ホルン：更なる演奏技術を身につけ、より幅が広い時代や分野の作品を研究する。				◎			◎			◎		○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1．知識・理解			2．技能・表現			3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
24UMUP3205	主 専 実 技 Ⅲ B	3	声楽：芸術作品を演奏するにふさわしい能力を高める。 ピアノ：芸術作品を演奏するためにふさわしいピアノ演奏能力を獲得する。 ヴァイオリン：前期の学習をふまえて、さらに音楽やヴァイオリンへの理解を深める。 ヴィオラ：音楽性を向上させる。 チェロ：前期の学習をふまえて、さらに音楽やチェロへの理解を深める。 フルート：フルートを媒体としての音楽表現力の向上を目指す。 クラリネット：クラリネットを演奏する上で求められる演奏技術、音楽性や知識を習得すること。またレパートリーの拡充を目的とする。 サクソフォン：さまざまな作品を演奏するために必要な能力を高める。 ホルン：ホルン奏者としての演奏技術と幅広い知識を習得する。	声楽：演奏するために必要な技術、音楽性、表現力を身につけることを目標とする。これまでに身につけた呼吸法・発声法を駆使しながら、レパートリーを広げていく。下級学年で勉強を重ねた外国歌曲との相違点を踏まえ、試験課題である日本歌曲の演奏法を身につける。 ピアノ：課題曲を演奏するために必要な技術・音楽性・表現力を身につける。 ヴァイオリン：知識・技能を自らの演奏に活かす。 ヴィオラ：演奏技術のみならず、音楽性を伴った意味のある音を出せるようにする。 チェロ：前期で習得したテクニックを応用し、与えられた課題をさらに高度に演奏することを目標にする。 また独奏のみではなく、他の楽器との合奏を経験し、幅広い音楽性を身につける。 フルート：音楽を表現するための妨げとなる、フルートという楽器の制約（低音域の音量が乏しい、跳躍した音型のレガート奏法の困難さ等）を克服するための方法を自ら考え、適応力を身につける。 クラリネット：楽曲の構成を把握する能力を身につける。 サクソフォン：現代の作品を研究し、さらにレパートリーを拡大していく。 ホルン：更なる演奏技術を身につけ、より幅が広い時代や分野の作品を研究する。				◎			◎			◎		○
24UMUP4206	主 専 実 技 Ⅳ	4	声楽：芸術作品を演奏するにふさわしい能力を高める。 ピアノ：芸術作品を演奏するために必要な能力を高める。 ヴァイオリン：後期の卒業演奏のための技術的・音楽的理解の習得を目的とする。 ヴィオラ：４年間の学習を完成させる。 チェロ：これまでに習得してきた演奏技術の演奏表現の総合的完成を目的とする。 フルート：フルートを媒体としての音楽表現力の向上を目指す。 クラリネット：クラリネットを演奏する上で求められる演奏技術、音楽性や知識を習得すること。またレパートリーの拡充を目的とする。 サクソフォン：音楽性を磨きレパートリーの拡充を図る。 ホルン：ホルン奏者としての演奏技術と幅広い知識を習得する。	声楽：演奏するために必要な技術、音楽性、表現力を身につけることを目標とする。 声楽曲を演奏するために必要な発声法、呼吸法等の歌唱法のさらなる向上を目指す。 楽曲の深い理解と解釈を習得する。レパートリーのさらなる拡大をはかる。 ピアノ：課題曲を演奏するために必要な技術・音楽性・表現力を身につける。 ヴァイオリン：音楽家としての資質を高めるため、演奏技術、音楽的理解、表現力のさらなる向上を目指す。 ヴィオラ：卒業演奏へ向けてこれまでの学習を再検討し、不足している部分を強化するとともに、自らが得意とする技法や表現をより伸ばしていく。 チェロ：チェロのためのソナタ、協奏曲、もしくはそれに準ずる作品を選択し、曲の完成を目標とする。 フルート：音楽を表現するための妨げとなる、フルートという楽器の制約（低音域の音量が乏しい、跳躍した音型のレガート奏法の困難さ等）を克服するための方法を自ら考え、適応力を身につける。 クラリネット：舞台での演奏を念頭に置き、必要十分な技術、表現力を身につける。 サクソフォン：卒業演奏での作品を決定する。これまでの学習内容を生かし、さらに研究を深める。 ホルン：高度な演奏技術を身につけ、より豊かな演奏表現を目指す。				◎			◎			◎		○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1．知識・理解			2．技能・表現			3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
24UMUP4207	卒　業　演　奏	4	声楽：芸術作品を演奏するにふさわしい能力をさらに高め、大学での主専実技の総仕上げとして公開での演奏を行う。 ピアノ：卒業演奏として公開演奏を行う。 ヴァイオリン：充実したヴァイオリン演奏ができるよう、演奏技術・音楽理解度を再確認し、卒業演奏として公開演奏を行う。 ヴィオラ：４年間の学びの集大成を卒業演奏会で発表する。 チェロ：充実したチェロ演奏ができるよう、演奏技術・音楽理解度を再確認 し、卒業演奏として公開演奏を行う。 フルート：フルートを媒体としての音楽表現力の向上を目指す。 クラリネット：これまでの学習の成果を、卒業演奏として発表する。技術と心を兼ね備えた表現豊かな演奏を望みたい。 サクソフォン：４年間の学習の成果を卒業演奏として公開で行う。 ホルン：これまでの学習および研究成果を卒業演奏に反映させる。	声楽：今までの学習を基に、自らが考え、感じながら表現する力を最大限に発揮し、技術力・表現力を兼ね備えたより完成度の高い演奏を目指す。 ピアノ：今までの学習を基に、自らが考え、感じながら、技術力・表現力を兼ね備えた完成度の高い演奏を目指す。 ヴァイオリン：今までの学習の集大成として、質の高い演奏をする。 ヴィオラ：課題曲目を熟考し、演奏技術のみならず、課題曲の背景などにも目を向けた演奏を目指す。 チェロ：チェロソナタ、協奏曲、若しくはそれに準ずる作品を選択し、技術的、精神的にも完成した演奏ができることを目標とする。 フルート：今までの学習を基に、学生が自ら音楽的理解をより深め、豊かな表現力とそれに必要な演奏技術の向上を目指し、創意工夫をする。その集大成として卒業演奏で発表する。 クラリネット：舞台での演奏に必要とされる高度な技術、および表現力を身につける。また舞台マナー等にも気を配れるようにする。 サクソフォン：これまでの学習内容を生かし、学生生活の集大成として高いレベルの演奏を目指す。 ホルン：これまでに取り組んできた内容をもとに、自身の魅力を最も主張できる選曲で卒業演奏に臨む。				◎			◎			◎		○
24UMUP1208	副専声楽実技ＩＡ	1	声楽を学ぶにあたっての基礎知識を習得させる。専門や、教職に必要な基本的な事柄をふまえて、歌うということを習得させる。また、歌とピアノ伴奏とのアンサンブル感覚を養い、他の楽器にはない「歌詞（言葉）」の重要性を意識させる。	イタリア古典歌曲を歌うことを目標とする。					◎					○		
24UMUP1209	副専声楽実技ＩＢ	1	前期に学んだ基礎知識や、呼吸法、発声法、また、専門や、教職に必要な事柄をさらに充実させ、歌うという事を習得させる。	イタリア歌曲を歌うことを目標とする。					◎					○		
24UMUP1210	副専ピアノ実技ＩＡ	1	バッハ等のバロックの作品を中心に、ツェルニー30番の習得も含めて、必要な演奏技術および表現力を養うことを目的とする。	基礎的な技術を習得し、音楽表現に結び付ける。バロック時代の音楽、特にバッハの音楽の様式感を理解し、表現できるよう習得する。					◎					○		
24UMUP1211	副専ピアノ実技ＩＢ	1	ハイドン等の古典派の作品を中心に、ツェルニー30番の習得も含めて、必要な演奏技術および表現力を養うことを目的とする。	ハイドンの作品の様式感を理解して表現できるように、テクニックを高める。					◎					○		
24UMUP2212	副専声楽実技ＩＩＡ	2	１年生で学んだ歌うための基礎知識をさらに充実させ、専門や教職に必要な事柄を引き続き習得する。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	声を用い自分を表現できることを目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。					◎					○		

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1．知識・理解			2．技能・表現			3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
24UMUP2213	副専声楽実技ⅡB	2	前期に学んだ基礎的呼吸法、発声法をもとに発声の追求に取り組む。専門や、教職に必要な基本的な事柄をさらに充実させ、歌うということを習得する。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	声を用い自分を表現できることを目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。					◎					○		
24UMUP2214	副専ピアノ実技ⅡA	2	「副専ピアノ実技Ⅰ」に引き続いてより高度な演奏技術および表現力を養う。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	基礎的な技術を高め、より多彩な曲の表現に役立てる。安定したテクニックで、特にバッハの様式感を踏まえた演奏を目指し、ポリフォニー作品に取り組む。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。					◎					○		
24UMUP2215	副専ピアノ実技ⅡB	2	「副専ピアノ実技Ⅰ」に引き続いてより高度な演奏技術および表現力を養う。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	基礎的な演奏能力をさらに高め、古典派の音楽に親しみ、様式感を理解し、音楽的表現を目指す。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。					◎					○		
24UMUP3216	副専声楽実技ⅢA	3	２年間学んだ呼吸法、発声法の充実と、音楽内容のさらなる追求に取り組み、専門や、教職に生かせることを目的とする。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	声を用い自分を表現できることを目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。					◎					○		
24UMUP3217	副専声楽実技ⅢB	3	入学以来の学習の成果を十分に発揮することを目指す。これまでの学習の集大成として、技術、音楽性、豊かな人間性を兼ね備えた演奏ができることを目的とする。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	声を用い自分を表現できることを目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。					◎					○		
24UMUP3218	副専ピアノ実技ⅢA	3	「副専ピアノ実技Ⅱ」に引き続いて、より高度な演奏技術および表現力を養う。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	基礎的な技術を安定化させ、より多彩に各曲の表現をする。ロマン派の音楽の様式感を踏まえた表現の演奏を目指す。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。					◎					○		
24UMUP3219	副専ピアノ実技ⅢB	3	「副専ピアノ実技Ⅱ」に引き続いて、より高度な演奏技術および表現力を養う。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	さらに演奏技術を高め、古典派はもとより、ロマン派の音楽も表現できるように自発的な音楽づくりを目指す。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。					◎					○		
24UMUP4220	副専ピアノ実技ⅣA	4	「副専ピアノ実技Ⅲ」に引き続いて、より高度な演奏技術および表現力を養うことを目的とする。	基礎的な技術のさらなる向上と読譜力および表現力のアップを目指す。					◎					○		

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1．知識・理解			2．技能・表現			3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
24UMUP4221	副専ピアノ実技Ⅳ B	4	「副専ピアノ実技Ⅲ」に引き続いて、より高度な演奏技術および表現力を養うことを目的とする。	これまでに積み上げてきた演奏技術を駆使して、各自で自由に選択した曲を、その曲の持つ様式感にふさわしい演奏ができるように総仕上げする。					◎					○		
24UMUP1222	ソルフェージュⅠA	1	視唱・リズム打ち・聴音などを通して、楽譜から情報を正しく読み取って表現することができる読譜力を身につける。	音楽を表現するために必要な読譜力を向上させ、教職等の現場に適応できる実践力を身につけている。	◎				○							
24UMUP1223	ソルフェージュⅠB	1	前期に引き続いて、視唱や聴音などを通して読譜力を向上させるとともに、旋律に適切な伴奏を付けるための知識と技能を養う。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	調号の比較的少ない調の旋律に、適切な和声を付けて伴奏することができるようになる。単旋律に加えて複数の旋律を聴きわけることができるようになる。教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎				○							
24UMUP2224	ソルフェージュⅡ	2	ソルフェージュIで習得した読譜力や伴奏付けの能力をさらに向上させるとともに、音楽活動や指導に必要とされる基礎的な音楽能力を確かなものとする。	転調を含む様々な調の旋律に、適切な和声を付けて伴奏することができるようになる。また読譜力を高め、初見視奏や移調奏ができるようになる。	◎				○							
24UMUP1225	和　声　法　A	1	楽典の知識を確かなものとし、楽曲を構成する要素の一つである和声を理解して実施する能力を身につける。またその技能を作品の考察や、創造的な表現に活用する能力を養成する。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	基本形の和音によるバス課題（8小節～10小節程度）を四声体で実施できるようになる。教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎				○							
24UMUP1226	和　声　法　B	1	「和声法A」で習得した技能に加えて、さらに高度な和声を理解して実施する能力を身につける。またその技能を作品の考察や、創造的な表現に活用する能力を養成する。	基本形の和音に加えて、第1転回形および第2転回形の和音を含むバス課題を四声体で実施できるようになる。	◎				○							
24UMUP2227	指　揮　法　Ⅰ	2	音楽性豊かな表現をするための基本的な指揮法の習得を目的とする。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	指揮者と指導者の目線で楽譜を捉えて、それを伝える身体的表現を身につける。教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。					◎			○			○	○
24UMUP2228	指　揮　法　Ⅱ	2	さらに多彩な表現をするための応用的な指揮法の習得を目的とする。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	指揮者と指導者の目線で楽譜を捉えて、それを伝える身体的表現を身につける。教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。					◎			○			○	○
24UMUP4229	作家作品研究Ⅰ	4	西洋の音楽作品にみられる音楽そのものの背景を、その歴史的意義と文化史的意味を視野にいれながら、演奏解釈にも有用な分析の在り方を習得することを目的とする。	音楽作品の創作過程とその文化的背景を知ることで、自らの音楽表現に資することを目標とする。		◎			○							

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1．知識・理解			2．技能・表現			3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
24UMUP4230	作家作品研究Ⅱ	4	西洋音楽の作品が生み出される背景と音楽作品自体に内在している音楽的事象を分析的に考察する。その考察に基づいて実際の演奏表現に資する問題について講義する。	幅広い音楽作品へのアプローチの方法を、実際の演奏に反映できるようにすることを目標とする。		◎			○							
24UMUP2231	即興演奏A	2	「即興演奏」の手法を学び、その基礎力を身につける。	伴奏譜がなくても、メロディーとコードネーム付き一段譜を見て、変奏も含めた簡単な即興演奏ができる事を目標とする。					◎							
24UMUP2232	即興演奏B	2	「即興演奏A」で学んだ即興とはまた違った即興演奏を学習し、基礎力をさらに向上させる。簡単なメロディーを即興的に作成し、ピアノで即興演奏できる事を目指し、将来、教員や音楽教室講師などの職業に大いに役立つ力を身につける。	メロディーのモチーフを発展させ、即興的に簡単な曲が作成できる事を目標とする。					◎							
24UMUP4233	作・編曲法A	4	童謡や歌曲を主な題材に、その時代背景も視野に入れながら作品分析を行い、創作を通して作曲や編曲の技法を習得するとともに、作曲家の意図を読み取り、歌唱の団体指導や演奏に反映する能力を養う。また西洋および日本の音楽・文化に関する知識の理解や、問題に取り組む方法、表現力の向上に役立つ能力を身につける。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	「和声法」や「旋律と和声」で学んだ知識を活用して、声楽作品の分析や作曲、編曲をすることができる。またその過程で学んだことを指導や演奏に活用することができる。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎	◎			○							
24UMUP4234	作・編曲法B	4	器楽作品を主な題材に、その時代背景も視野に入れながら作品分析を行い、創作を通して作曲や編曲の技法を習得するとともに、作曲家の意図を読み取り、歌唱の団体指導や演奏に反映することのできる能力を養う。また西洋および日本の音楽・文化に関する知識の理解や、問題に取り組む方法、表現力の向上に役立つ能力を身につける。	前期で学んだ基礎的な作曲技法を生かして、器楽作品の分析や作曲、編曲をすることができる。またその過程で学んだことを指導や演奏に活用することができる。	◎	◎			○							
24UMUP2235	旋律と和声A	2	「和声法B」で習得した技能に加え、さらに高度な和声を用いて、旋律との関係を考慮しながら実施する能力を身につける。さらにそれらの多種の和音、およびそれが作品の中で使われる際の多様な意味を、歴史的背景もふまえながら探求し、作品を深く理解する能力を養う。	属七などのドミナント諸和音を含む和声課題の実践能力を習得し、楽曲における和声の仕組みを読み取り考察することができるようになる。	◎				○							
24UMUP2236	旋律と和声B	2	「旋律と和声A」で習得した技能に加え、さらに高度な和声を用いて、旋律との関係を考慮しながら実施する能力を身につける。さらにそれらの多種の和音、およびそれが作品の中で使われる際の多様な意味を、歴史的背景もふまえながら探求し、作品を深く理解する能力を養う。	サブドミナント諸和音や借用和音を含む和声課題の実践能力を習得し、楽曲における和声の仕組みを読み取り考察することができるようになる。	◎				○							

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1．知識・理解			2．技能・表現			3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
24UMUP2237	教育伴奏法	2	中学、高等学校の授業で取り上げられるような教材を用い、各曲の指導のねらいとポイントにそった音楽づくりができるよう伴奏および弾き語りをする。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	ピアノ専修：伴奏を通して音楽全体を把握し、より良い音楽表現を目指して弾き語りができるようにすることを目標とする。 声楽・管弦専修：伴奏を通して音楽全体を把握し、曲にふさわしい音楽表現を目指して弾き語りができるようにすることを目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。					◎				◎			○
24UMUP3238	楽曲研究A	3	「ソルフェージュ」で習得した読譜力や、「和声法」ならびに「旋律と和声」で学んだ和声の知識を生かし、楽曲を歴史的背景を含む様々な観点から読み解く力を身につける。またそれを演奏解釈や音楽指導に反映させる力を養う。	楽曲を分析するために必要な音楽的基礎知識を習得し、ピアノの小品を中心とした楽曲を分析することができる。またその結果を演奏解釈に結びつけて考察することができる。	◎	◎			○							
24UMUP3239	楽曲研究B	3	前期で学んだ知識を生かしながら、さらに複雑な構成の楽曲や様々な編成の楽曲を、歴史的背景を含む様々な観点から読み解く力を身につける。またそれを演奏解釈や音楽指導に反映させる力を養う。	ソナタ形式の原理、その発展について理解し、それらを応用しながら様々な楽曲を分析することができる。またその結果を演奏解釈や音楽指導に結びつけて考察することができる。	◎	◎			○							
24UMUP3240	電子楽器	3	卒業後、教員、音楽教室講師など音楽の職業についた時に役立つ力を身につけ、クラシック以外の様々なジャンルの音楽についての知識も深め、あらゆるジャンルの曲にも取り組み、様々な対応力を身につける。	各自志向の曲が何曲か仕上がり、即興演奏の手法も身につけることを目標とする。					◎							○
24UMUP1241	音楽史Ⅰ	1	人類が音を取り扱う中で培ってきた音楽の歴史を古代から振り返り、ヨーロッパはバロック音楽まで、日本は中世までの音楽事象の変化を社会の流れと結びつける。	ヨーロッパを中心とする西洋と日本の音楽文化の違いを認識し、それぞれを対照しつつ、体系的な理解を得ることを目標とする。		◎			○							
24UMUP2242	音楽史Ⅱ	2	「音楽史Ⅰ」を受け、ヨーロッパはバロック音楽から古典派音楽へのダイナミックな転換から、日本は近世以降、それぞれ現代までの音楽の歴史を社会の流れと結びつける。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	ヨーロッパを中心とする西洋と日本の音楽文化の違いを認識し、それぞれを対照しつつ、体系的な理解を得ることを目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎			○							
24UMUP1243	合唱Ⅰ	1	声の重なりが作る奇跡に耳を傾け、合唱の魅力を味わうとともに、全員で一つの音楽をつくる喜びを感じ、表現したいイメージをふくらませ豊かにする。	声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して表現を工夫しながら合わせて歌うこと。また、社会で協調できる能力の育成を目標にする。					◎	◎						
24UMUP2244	合唱Ⅱ	2	声の重なりが作る奇跡に耳を傾け、合唱の魅力を味わうとともに、全員で一つの音楽をつくる喜びを感じ、表現したいイメージをふくらませ豊かにする。	声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して表現を工夫しながら合わせて歌うこと。また、社会で協調できる能力の育成を目標にする。					◎	◎						

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1．知識・理解			2．技能・表現			3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
24UMUP3245	合　唱　Ⅲ	3	声の重なりが作る奇跡に耳を傾け、合唱の魅力を味わうとともに、全員で一つの音楽をつくる喜びを感じ、表現したいイメージをふくらませ豊かにする。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して、表現を工夫しながら合わせて歌うことを通して社会で協調できる能力の育成を目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。					◎	◎						
24UMUP1246	学内演奏Ⅰ	1	「演奏者」と「鑑賞者」の両方の視点を養わなければ、音楽を真に理解し、探求することは不可能である。この科目は「演奏」と、その「鑑賞」を通して、音楽とは何か、演奏とはどういうことなのかを体感することを目指す。	演奏やレクチャーを受講し、客観的に音楽をとらえていくことを学ぶ。								◎				○
24UMUP2247	学内演奏Ⅱ	2	「演奏者」と「鑑賞者」の両方の視点を養わなければ、音楽を真に理解し、探求することは不可能である。この科目は「演奏」と、その「鑑賞」を通して、音楽とは何か、演奏とはどういうことなのかを体感することを目指す。	鑑賞をすることで、演奏者の音楽に対する取り組みを学び、演奏者としてそのことを活かせることを目標とする。								◎				○
24UMUP3248	学内演奏Ⅲ	3	「演奏者」と「鑑賞者」の両方の視点を養わなければ、音楽を真に理解し、探求することは不可能である。この科目は「演奏」と、その「鑑賞」を通して、音楽とは何か、演奏とはどういうことなのかを体感することを目指す。	・多様な演奏を聞き、講義を受講することにより、音楽に対する感性を養い、知識の幅を広げる。 ・演奏者および鑑賞者としてのマナーを習得する。								◎				○
24UMUP3249	器楽合奏	3	教育現場における多様性に学生が自ら考え、創意工夫をし、対応できる力を身につけることを目的とする。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	アルトリコーダーの基本的な奏法を習得し、合奏を通して、アンサンブルの中における個の表現力とアンサンブル全体の表現力にイメージを及ぼす事により、協調性を育み、自らの演奏の問題を発見し、それを克服する術を自ら考える。 教育現場における邦楽への関心の高まりを受けて、篠笛の奏法も学習する。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。					◎	◎						
24UMUP3250	邦　楽	3	学校教育において「和楽器の履修」が義務となっている現状では、その指導者の育成は急務である。その必要性は学校だけにとどまらず、一般社会においても望まれている。本講座では、邦楽を邦楽器（箏）の演奏と歌唱の両面から学び、基礎知識および演奏法の習得を目的とする。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	箏の基礎知識を理解できるようになることはもちろんであるが、箏の奏法を習得し、演奏できるようになることを最も重要と考え、到達目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。					◎							◎

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1．知識・理解			2．技能・表現			3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
24UMUP2251	副　科　器　楽　A	2	自らの専門以外の楽器の奏法の習得を目的とし、広く器楽教育の視野を持てるようにする。本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	ヴァイオリン：ヴァイオリンに関する基本的な知識、および基礎的な奏法を習得する。 ヴィオラ：ヴィオラに関する基本的な知識、および基礎的な奏法を習得する。 チェロ：チェロの様々な基礎技術や楽器の構造、歴史などを幅広く身につけ、与えられた課題を慎重にかつ真面目に自発的に取り組む姿勢を養う。そして前期の実技試験において、簡単な小品を楽しく演奏できるようにする。 フルート：フルートに関する基本的な知識、および基礎的な奏法を習得する。自分の専門実技以外の楽器の習得を目指すことにより、それを伝える方法を自ら考える。 クラリネット：クラリネットに関する基本的な知識、および基礎的な奏法を習得する。 サクソフォン：サクソフォンに関する基本的な知識、および基礎的な奏法を習得する。 クラシックギター：ギターの様々な基礎技術や楽器の構造、歴史などを幅広く身につけ、与えられた課題を慎重にかつ真面目に自発的に取り組む姿勢を養う。そして前期の実技試験において簡単な小品を楽しく演奏できるようにする。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。					◎	◎						
24UMUP2252	副　科　器　楽　B	2	自らの専門以外の楽器の奏法の習得を目的とし、広く器楽教育の視野を持てるようにする。本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	ヴァイオリン：ヴァイオリンの基礎的な奏法を確かなものにし、さらに表情豊かに楽曲の演奏ができるようにする。 ヴィオラ：ヴィオラの基礎的な奏法を確かなものにし、さらに表情豊かに楽曲の演奏ができるようにする。 チェロ：チェロの様々な基礎技術や楽器の構造、歴史などを幅広く身につけ、与えられた課題を慎重にかつ真面目に自発的に取り組む姿勢を養う。そして後期の実技試験において簡単な小品をさらに表情豊かに楽しく演奏できるようにする。 フルート：フルートの基礎的な奏法を確かなものにし、さらに表情豊かに楽曲の演奏ができるようにする。自分の専門実技以外の楽器の習得を目指すことにより、それを伝える方法を、自ら考える。 クラリネット：クラリネットの基礎的な奏法を確かなものにし、さらに表情豊かに楽曲の演奏ができるようにする。 サクソフォン：サクソフォンの基礎的な奏法を確かなものにし、さらに表情豊かに楽曲の演奏ができるようにする。 クラシックギター：ギターの様々な基礎技術や楽器の構造、歴史などを幅広く身につけ、後期の実技試験で簡単な小品をさらに表情豊かに楽しく演奏できるようにする。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。					◎	◎						
24UMUP1253	イタリア語表現演習	1	音楽学習者に必修のイタリア語の初歩文法と発音を徹底する。	1．同じ５つの母音を持つ日本語とイタリア語の音の違いを理解し、発音練習を繰り返すことにより、歌唱に役立てる。 2．イタリア語の初歩文法を理解する。 3．簡単な会話を習得する。			◎									
24UMUP2254	声楽演奏研究ＩＡ	2	個人レッスンで学んでいる呼吸法、発声法をもとに、さらに楽譜を深く読み取る力を身につけ、より良い演奏を目指す。	イタリア語の歌曲・アリアの基礎的な演奏法・読譜法・ディクションを習得し演奏できるようになること。				◎			○			○		○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1．知識・理解			2．技能・表現			3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
24UMUP2255	声楽演奏研究ⅠB	2	音楽（フレージング・アーティキュレーション等）と文学（原詩の意味内容・リズム等）の関連を考察し、色彩豊かで立体的なドイツ歌曲の演奏法（歌唱法）を習得する。	声楽専修生、器楽専修生の双方にとって重要なレパートリーであるドイツ音楽を演奏する上で必要な技術、感性、思想等が身につくことを目標とする。				◎			○			○		○
24UMUP3256	声楽演奏研究ⅡA	3	声楽作品の中でも触れる機会の少ないフランス歌曲を、時代背景や文化とともに学びつつ、歌唱のためのフランス語の発音法を学び、演奏できる技術を習得していく。	ベルリオーズによって名付けられた「メロディー・フランセーズ」（フランス歌曲）の最盛期の主な作品を各自が演奏できるように実習する。				◎			○			○		○
24UMUP3257	声楽演奏研究ⅡB	3	歌唱の中でいかに自然な日本語として発語するか、日本語の言葉の一つ一つを生きた言葉として歌唱するにはどうすればよいか、ということを様々な曲の実習を通して考え、歌唱することができるようにする。	1．楽譜通りに曲を再現する。 2．日本語としての発語を徹底させる。 3．詩と旋律、ピアノ部分との関わりから、その曲をどのように表現したいかを考えて歌唱できるようにする。				◎			○			○		○
24UMUP4258	声楽演奏研究ⅢA	4	バロックからロマン派までの音楽史上に重要な位置を占めるオラトリオを多く学習することを目的とする。	西洋音楽の重要な位置を占めるオラトリオの勉強をすることで、言葉と音楽で物語を表現すること。 豊かな自己表現ができることを目標とする。				◎			○			○		○
24UMUP4259	声楽演奏研究ⅢB	4	アンサンブルの音楽的特色を学び、その学習を通じて、技術的な特色を学び、演奏できるレベルに仕上げる。	伴奏に対応でき、内容を伝えることができる歌唱。 協調性と豊かな自己表現ができることを目標とする。				◎		○	○	○		○		○
24UMUP3260	演　技　演　習	3	様々な芸術分野が複雑にかつ有機的に関連するオペラを、音楽と演劇両面からの理解を深めるため、まず演じる基礎となる種々の演習を実践することを目的とする。	オペラの台本から読み取れる感情や背景等に関する知識の理解。 共同作業によるコミュニケーション、チームワークやリーダーシップ、責任感。 肉体を動かすことによる心身の解放。 これらを総合的に活用し、自然な動きや自由な自分らしい発想による役作りができることを目標とする。				○		◎	○					
24UMUP4261	オ　ペ　ラ	4	一本のオペラを通して演奏し、演技も付けることにより、より確実な呼吸法と発声法と表現法を体験する。 演じる楽しさと歓びを体験する。 集団で創り上げる喜びと達成感を体験する。	オペラの演奏と演技をすることにより、客観的に自分自身を理解するようになること。 クラス授業で沢山の同級生とひとつの作品を公演にもっていく過程において、相手を理解し、共同して作りあげる喜びを体験すること。				○		◎	○					
24UMUP4262	合　唱　指　導　法	4	多種多様な要求に応えることができる専門の知識と、柔軟で魅力的な指導力を身につけることを目的とする。	指導することで、多岐にわたる問題を解決する能力を養い、社会に出た際に柔軟に対応できる能力を養うことを目標にする。					◎			◎	◎			○
24UMUP2263	協　奏　曲　Ⅰ	2	ピアノとオーケストラの合奏形態の中で、管弦楽器の様々な音色や特性を念頭におき、ソリストとして音楽的で完成度の高い演奏とは何かを追求していく。	相互の楽器の特徴を発揮しながら調和するように作られた作品（ピアノという独奏楽器と管弦楽との合奏）に、どのように取り組み、表現するかを学ぶ。				◎		◎	○			○		
24UMUP3264	協　奏　曲　Ⅱ	3	ピアノとオーケストラの合奏形態の中で、管弦楽器の様々な音色や特性を念頭におき、ソリストとして音楽的で完成度の高い演奏とは何かを追求していく。「協奏曲Ⅰ」よりもさらに内容の高いものが要求される。	「協奏曲Ⅰ」と同様、相互の楽器の特徴を発揮しながら調和するように作られた作品（ピアノという独奏楽器と管弦楽との合奏）に、どのように取り組み、表現するかを学ぶ。また「協奏曲Ⅰ」で習得した合奏方法を、さらに音楽的な演奏に高めるために学習し習得していく。				◎		◎	○			○		

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1．知識・理解			2．技能・表現			3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
24UMUP4265	伴　奏　法	4	音楽表現の中で、共演者と対等な関係にある伴奏の重要性を理解し、伴奏に求められている柔軟で確実なテクニックや多彩で豊かな音楽性について考察し、質の高い演奏技能を習得する。その上で、一人では完成できない曲をともに作り上げていく喜びを感じ、さらに多彩で深い表現を求めて自主的に探究していく力を養うことを目的とする。	共演者とともに音楽を表現することに喜びを感じるために、安定した信頼できるテクニックを習得すること。また、ともに音楽を作り上げていく共演者の息遣いを感じ、そのフレーズに相応しい表現のために柔軟な対応ができる力を養うことを目標とする。						◎		○			◎	○
24UMUP4266	ピアノアンサンブル	4	ピアノという楽器に習熟し、パートナーとのふれあいを通じてアンサンブルとしての調和を学び、ともに生きた音楽を作りあげるよろこびを体得する。	できるだけ多くの楽曲に接し、前期・後期の最終授業では演奏ホールで仕上げの演奏を発表する。						◎		○			◎	○
24UMUP4267	ピアノ指導法	4	教えることを通して、改めて自分のピアノ、音楽に向かう姿勢など見つめ直す機会とする。	演奏をクリティカルな聴き方をするだけでなく、その楽曲について作曲家の意図を考え、どうすればそれが聴き手に伝わる演奏となるのか、具体的に考える。 生徒が楽曲について興味を持つようなレッスンについて考える。 基礎的な読譜力を高める。					◎			◎	◎			○
24UMUP3268	チェンバロ	3	チェンバロ奏法の習得とバロック時代の音楽習慣の理解を目指す。	バロックの作品を演奏するときに戸惑いがちな装飾法やアーティキュレーションといったバロック独特の演奏習慣を理解するために、チェンバロの奏法を学ぶ。 また、バロックから初期古典派時代に存在した独特な音楽的演奏習慣や演奏語法の知識を深めることにより、古典派さらにロマン派音楽への変遷を理解することを目指す。		◎		○								
24UMUP3269	重奏演習	3	ピアノを含む室内楽曲において、他楽器とのアンサンブルの楽しさや難しさを知り、合わせるテクニックを身につける。	他楽器との関係が対等であることを理解し、時に伴奏、時に主導権を握って音楽を進めていく双方の弾き分けを身につける。						◎		○			○	○
24UMUP4270	合奏指導法	4	合唱、オーケストラ、吹奏楽など音楽家同士のコミュニケーションが必要とされる現場で、指導者としてどのようにアプローチしていくかを考察する。楽器、声楽の知識、また演奏技術や作品の熟知など様々な面の研究が必要とされる。また、合奏（音づくり）指導や練習方法などを学ぶ。	合奏指導法では、指導者の目線で音楽を捉えつつ、また相手に「どのように伝えるのか」をテーマに研究していく。					◎			◎	◎			○
24UMUP1271	合奏Ⅰ	1	様々なスタイルの管弦楽曲の演奏を通じ、管弦楽器の奏者に要求される合奏に関する基礎技術および知識を習得する。また、異なる楽器とともに演奏する楽しさを体感する。	基本的な合奏の技術を身につける。					○	◎	○	○				
24UMUP2272	合奏Ⅱ	2	様々なスタイルの管弦楽曲の演奏を通じ、管弦楽器の奏者に要求される合奏に関する基礎技術および知識を習得する。また、異なる楽器とともに演奏する楽しさを体感する。	より高度なアンサンブル能力を身につける。					○	◎	○	○				
24UMUP3273	合奏Ⅲ	3	様々なスタイルの管弦楽曲の演奏を通じ、管弦楽器の奏者に要求される合奏に関する基礎技術および知識を習得する。また、異なる楽器とともに演奏する楽しさを体感する。	自分の声部だけでなく、音楽全体を把握できる能力を身につける。					○	◎	○	○				

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1．知識・理解			2．技能・表現			3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
24UMUP4274	合　　奏　　Ⅳ	4	様々なスタイルの管弦楽曲の演奏を通じ、管弦楽器の奏者に要求される合奏に関する基礎技術および知識を習得する。また、異なる楽器とともに演奏する楽しさを体感する。	さらに高度なアンサンブル能力を身につける。また舞台マナー等にも気を配れるようにする。					○	◎	○	○				